

今後の未来人財育成基金募集推進活動について

2015年度の取り組み経過

あらためて「未来を切り拓く人財育成」にフォーカス

「+R個人奨励奨学金」を通じた学生の成長支援に基金を活用

校友大会記念特別募集過去最高となる寄付金額達成

浮上してきた課題

- ①第一次活用策(セミナーハウス)の今後の行方は?
- ②現行の奨学金事業以外の活用策は追求しないのか?

今後さらに数多くの校友が意欲的に同基金募集推進活動へ参加してくれるような新たな活用策、募集推進活動の在り方を検討する必要性が高まってきた!

2015年9月12日

三役会議にて新たな活用策および募集推進活動の在り方について検討開始

2015年11月3日

未来人財育成基金募集推進特別委員会正副委員長会議開催

2015年11月21日

臨時三役会議開催

2016年1月23日

未来人財育成基金募集推進特別委員会開催

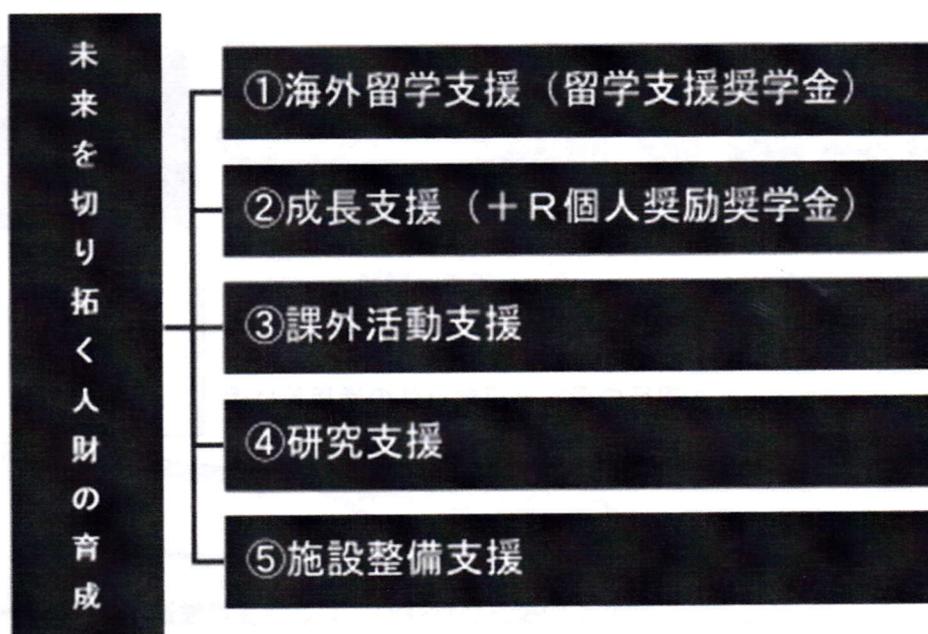
本日の提案内容

校友の思いを結集した活用策の設定および明確化

循環型後輩支援文化の確立

広報・コミュニケーション活動の改革・推進

(1) 校友の思いを結集した活用策の設定および明確化



①海外留学支援

- 名称：校友会トップグローバルサポート奨学金（仮称）
目的：グローバル化社会において活躍できる人材の育成
内容：世界大学ランキング100位以内の海外の大学への留学に挑もうとする後輩学生への支援奨学金
年間目標：1,000万円（50万円×20名）



②成長支援（+R個人奨励奨学金）

名 称：校友会「+R個人奨励奨学金」

目 的：主体的に未来を切り拓いていく人材の育成

内 容：正課授業で培った知識・教養をもとに、主体的に未来社会を切り拓く目標をかけた活動に取り組む後輩学生を支援する奨学金

年間目標：1,000万円（20万円×50名）



③課外活動支援

名 称：校友会課外活動支援（仮称）

目 的：①学びの場としての課外活動の高度化、大衆化支援

②校友のアイデンティティ向上、一体感醸成

内 容：後輩学生たちが多様な能力を生かし、仲間と協働しながら高いレベルの目標を達成することを通じて人間的に成長していくための財政的支援

年間目標：①課外活動団体への直接支援（500万円）

②東京五輪出場予定強化選手・団体への支援

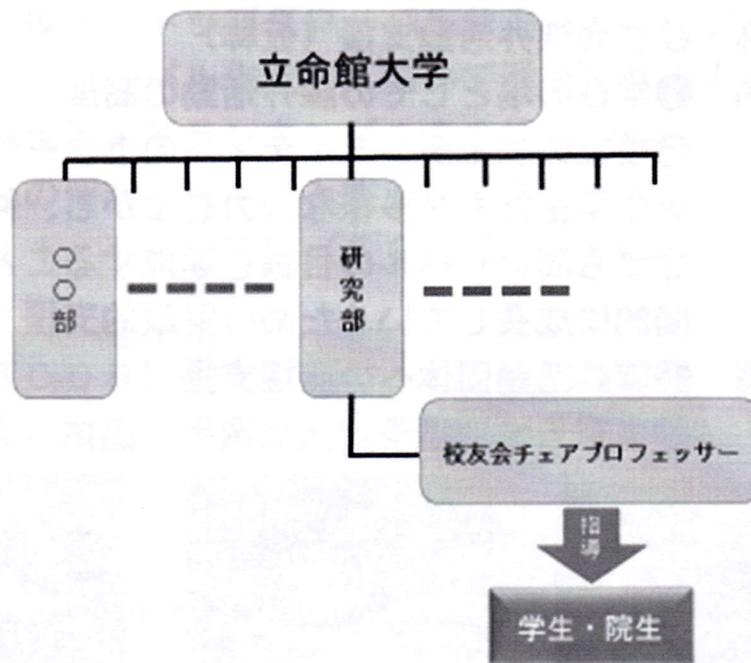


④研究支援

- 名称：校友会チェアプロフェッサーの任用
目的：後輩学生の研究力向上支援
内容：学生・院生の研究力向上支援を実現する研究者（校友会チェアプロフェッサー）の任用。
当該研究者の校友会主催企画への出演のみならずマスコミ等への出演を通じた立命館のブランド力向上も検討
年間目標：1,000万円



校友会チェアプロフェッサーの所属（イメージ）



⑤施設整備支援

- 名 称：グローバルに学び合う学生支援施設
- 目 的：学園発祥の地「京都」で後輩学生たちがグローバルに学び合う場（施設）の設置支援
- 内 容：3キャンパスで学ぶ後輩学生たちが、グローバル化社会において、学園発祥の地であり世界的歴史文化都市である京都で学ぶ機会の創出策の一環としての施設整備支援
- 年間目標：中長期的目標として追求

（2）循環型後輩支援文化の確立

校友会が未来人財育成基金を活用した後輩学生への支援を実施する



自分たちのニーズに合致した支援を受け、後輩学生たちは校友会に対し深く感謝する



校友になった際にはミッションとして後輩学生支援に取り組む思いを高めていく

慶応義塾大学における慶応義塾維持会の奨学金授与式

塾長の挨拶：「今回諸君は先輩方のご支援を受けた。この御恩を忘れることなく卒業後は、経済的条件が整えば必ず諸君が後輩たちを支援するように」

校友会代表：授与式後の懇話会で各テーブルに後輩学生と校友の代表（維持会常任委員）が同席し、後輩学生の話に耳を傾け、膝を交えて交流しながら激励の言葉を贈ることとなっている。

奨学金を受けて満足した学生生活を送ることができた学生は維持会の様々な広報物に登場し、校友への支援に感謝の言葉とともに、後輩への支援の思いを述べている。慶応義塾塾員センターに確認したところ卒業後多くの校友が維持会を通じて当たり前のように後輩学生への支援に参加するとのことであった。



(3) 広報・コミュニケーション活動の改革・推進

① 振込用紙一式が一体となった冊子の制作・活用

② 活用策、支援の成果が可視化できる広報物の制作・活用

立命館大学校友会は「未来を切り拓く人材」を応援しています。

③ 校友のニーズに対応したコミュニケーション活動の展開

校友のニーズ	コミュニケーション活動
成果の可視化	① 様々な媒体（Web、SNS、校友会報りつめい、NEWSレター等）を通じたコミュニケーション ② 支援を受け、成長できた学生との交流 ex. 成果報告会、留学報告会等
学生との交流	① 上記②に加え、課外活動団体の練習見学ツアーおよび観戦ツアー等の開催
寄付者同士の交流	① 寄付者限定の交流企画 寄付者同士の交流、校友自らも未来人材として成長する機会創出
奨学生の選定、および奨学生との交流	① 校友の代表者（RFS、RFSリーダー等）の選定過程への参加 ② 採用された奨学生との懇談会開催

今後の目標について

（1）当面の目標

2018年度に活用策①「海外留学支援」から④「研究支援」までの年間目標額3,500万円を単年度寄付で賄うことを目標とする。

少額でも広く協力者を募るという精神で、

3,000人の継続寄付者での達成を目指す！

- * 「3,000人」の根拠⇒1,000円/月×12ヶ月×3,000人=約3,500万円
- * 「継続寄付者」の定義 = ① 継続寄付手続者（毎月、毎年1回、2回問わない）、または、
② 2回以上の一括寄付者。

(2) 来入財育成基金募集推進事業対象の拡充について

- ①職域校友会組織
- ②地域校友会組織
- ③学部・学系校友会組織
- ④校友会報「りつめい」に登場実績のある校友等

以上に加えて、本学教職員にもさらなる参加を依頼！

今後のスケジュール

2016年2月27日 三役会議・常任幹事会・都道府県代表者会議

3月下旬 広報物等制作

4月 1日 新方針に基づく活動推進スタート